

第44期 決算説明資料

(2009年4月1日 ~ 2010年3月31日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **工ノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭

【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

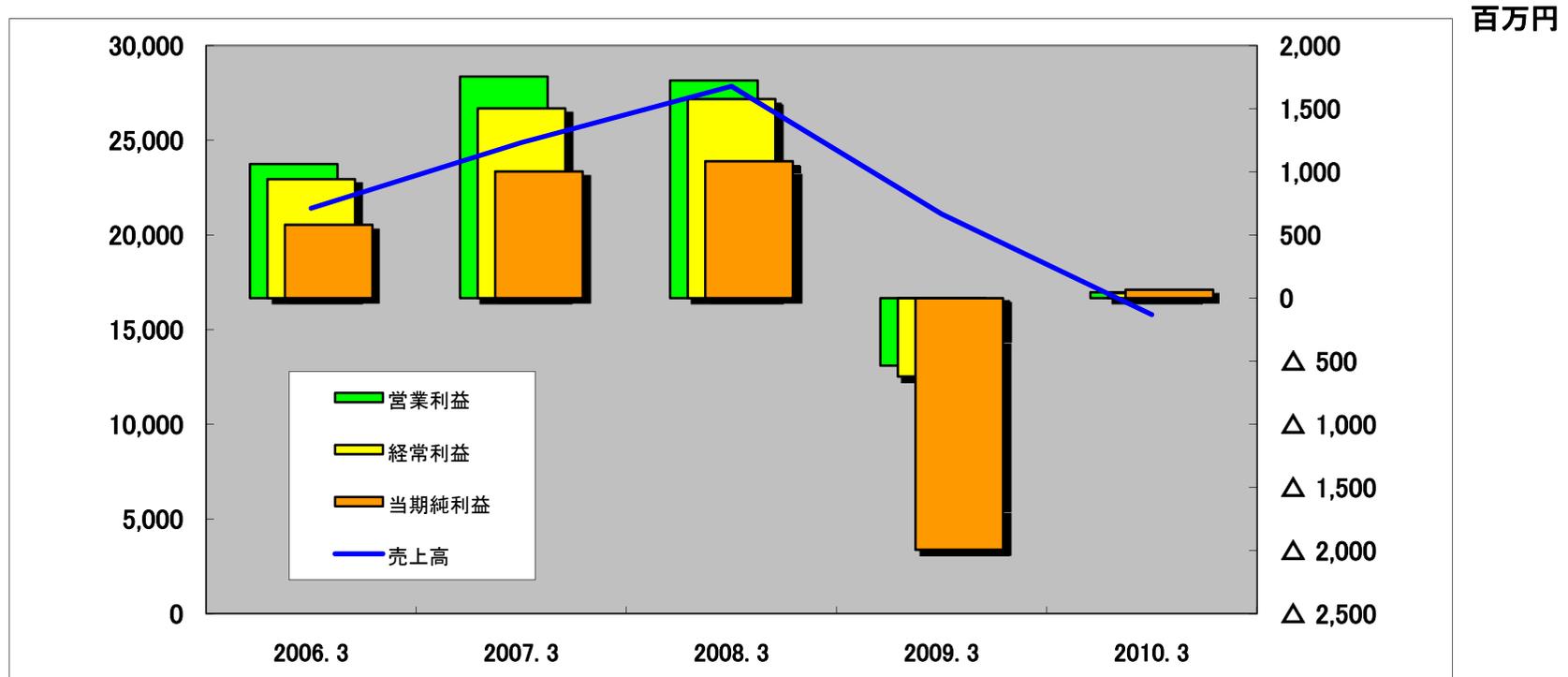
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



当期のご報告

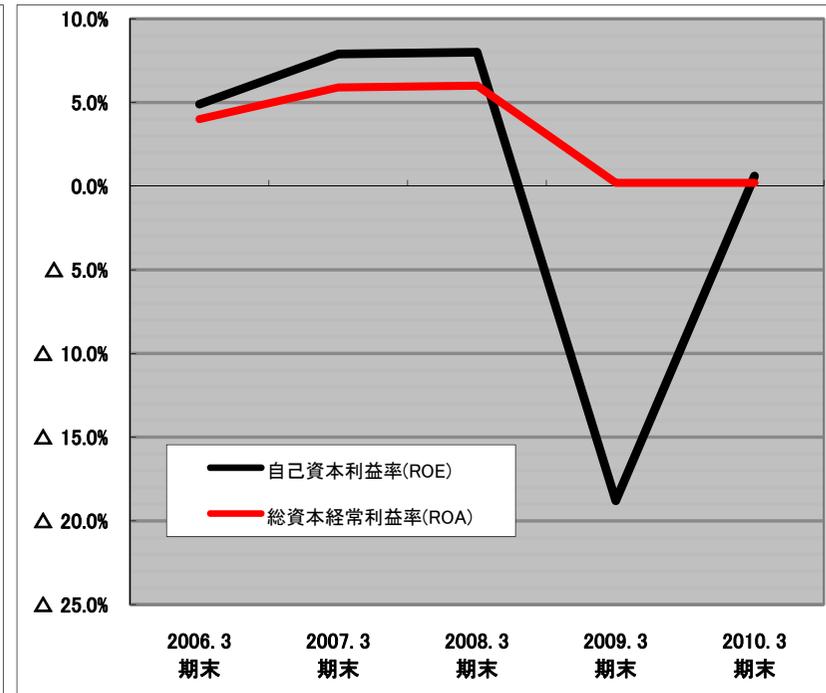
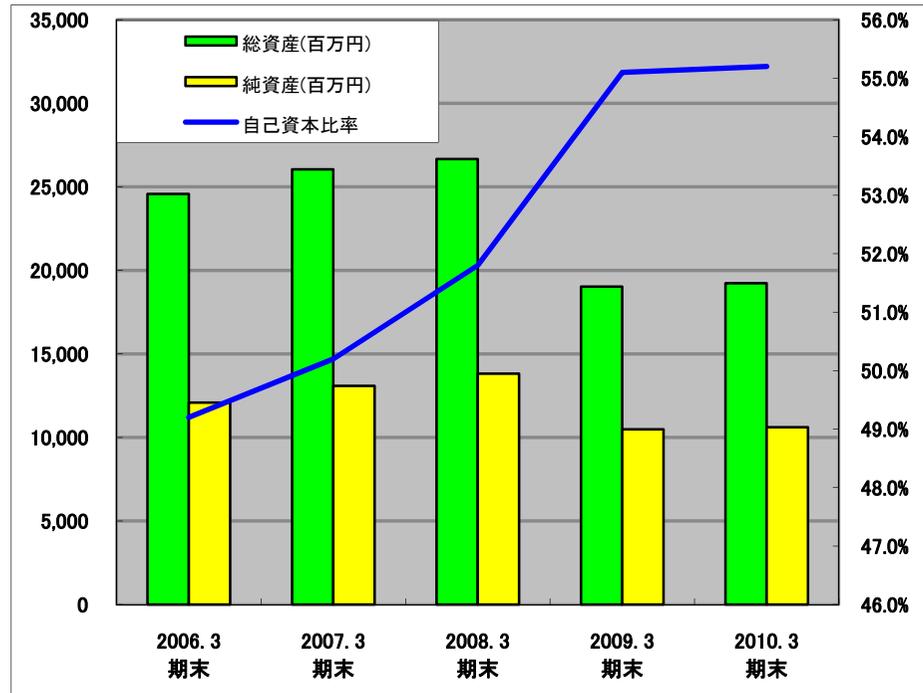
■ 連結業績の推移



	2006. 3	2007. 3	2008. 3	2009. 3	2010. 3	前期比
売上高	21,405	24,874	27,851	21,109	15,795	25.2%減
営業利益	1,061	1,755	1,724	△ 535	46	－
営業利益率	5.0%	7.1%	6.2%	－2.5%	0.3%	2.8P増
経常利益	943	1,503	1,577	△ 620	40	－
経常利益率	4.4%	6.0%	5.7%	－2.9%	0.3%	3.2P増
中間純利益	581	1,003	1,085	△ 1,993	67	－
中間純利益率	2.7%	4.0%	3.9%	－9.4%	0.4%	9.8P増

■ 財政状態

百万円



	2006.3 期末	2007.3 期末	2008.3 期末	2009.3 期末	2010.3 期末
総資産	24,572	26,044	26,661	19,029	19,228
純資産	12,088	13,083	13,816	10,488	10,617
自己資本比率	49.2%	50.2%	51.8%	55.1%	55.2%
自己資本利益率(ROE)	4.9%	7.9%	8.0%	-16.4%	0.6%
総資本経常利益率(ROA)	4.0%	5.9%	6.0%	-2.7%	0.2%

当期は、年度前半にかけては前年度に続き世界規模での景気後退に伴う個人消費及び設備投資が低調に推移したことに加え、企業の生産活動においても低迷を続けて参りましたが、政府による各種補助金等の需要喚起の施策効果もあり、年央より自動車や家電を中心とした耐久消費材の販売が伸長してきたことにより、個人消費をはじめ鉱工業生産においても回復傾向がみられました。さらに中国をはじめとする新興国の景気が欧米先進国に先行して回復基調となり、その恩恵を受けて国内の製造業における生産や輸出が増加に転じたことにより、年度後半より景気の持ち直し傾向が顕著となって参りました。

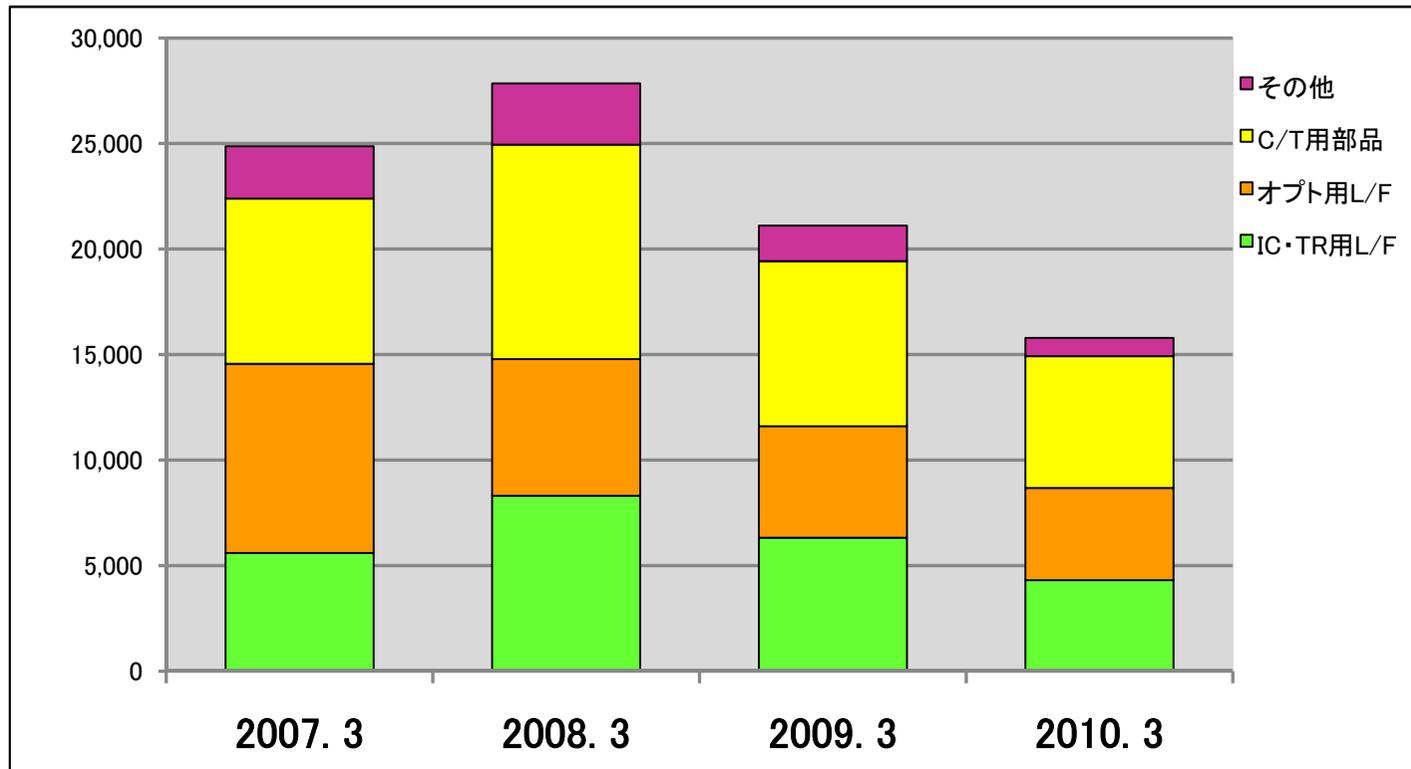
しかしながら、欧米の景気回復が遅々として進展しないことに加え、年度後半からの円高基調をはじめ、デフレの影響や雇用環境の悪化等の景気を下押しする要因が依然として存在していることから、引き続き予断を許さない状況であります。

当社グループが属する電子部品業界におきましては、年度前半においては個人消費の低迷の影響を大きく受けて、受注状況は低調な推移となりました。しかしながら、一部のコネクタ用部品においては前年度の行き過ぎた在庫・生産調整からの回復が進み、改善傾向を示す動きがみられ、また年度後半におきましては主にカーエレクトロニクス化の進展とハイブリッドカーをはじめとするエコカーの販売が堅調に推移したことにより車載デバイス向けリードフレームの出荷が伸長しました。また、省エネ効果が高いLEDが社会の注目を浴び、テレビ・ディスプレイ用バックライトをはじめ家庭用照明向け、車載向け、アミューズメント向け等に用途が広がると伴にLED関連市場は急速に成長しております。当社のLED用リードフレームにおきましても堅調に受注が回復し、年度後半には大幅に売上を伸ばして参りました。

このように激しく変化する経営環境下、期初よりグループの年度目標として「次世代製品の取り込み」と「品質重視」を掲げ、世界規模で需要が拡大しているLED用リードフレームの拡販をはじめ、品質改善活動による歩留まりの改善や品質向上による収益力の強化と顧客満足度の向上に全社一丸となり努めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は157億9千5百万円(前年同期比25.2%減)となりました。また、営業利益は4千6百万円(前年同期は営業損失5億3千5百万円)、経常利益は4千万円(前年同期は経常損失6億2千万円)、当期純利益は6千7百万円(前年同期は当期純損失19億9千3百万円)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2007. 3	2008. 3	2009. 3	2010. 3	前期比
IC・TR用リードフレーム	5,596	8,310	6,325	4,311	31.8%減
オプト用リードフレーム	8,966	6,473	5,277	4,368	17.2%減
コネクタ用部品	7,833	10,167	7,827	6,243	20.2%減
その他	2,478	2,900	1,679	871	48.1%減
合計	24,874	27,851	21,109	15,795	25.2%減

① IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。世界的な景気後退の影響より、半導体分野におきましても期初より深刻な需要の低迷が継続して参りましたが、年央より車載デバイス用途向けを中心に回復して参りました。その結果、当製品群の売上高は43億1千1百万円(前年同期比31.8%減)となりました。

② オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用部品及びレーザー用部品が主なものであります。期初より主要メーカーによる在庫調整の影響を大きく受け受注が大幅に減少しておりましたが、秋以降、エコポイント制度をはじめとする経済対策の効果や省エネ対応製品として液晶ディスプレイのバックライト用としての採用や、白熱灯や蛍光灯に替わる照明として、エコ商品の代表格としてLEDを利用した機器への需要が拡大しており、受注状況は堅調に回復して参りました。その結果、当製品群の売上高は43億6千8百万円(同17.2%減)となりました。

③ コネクタ用部品

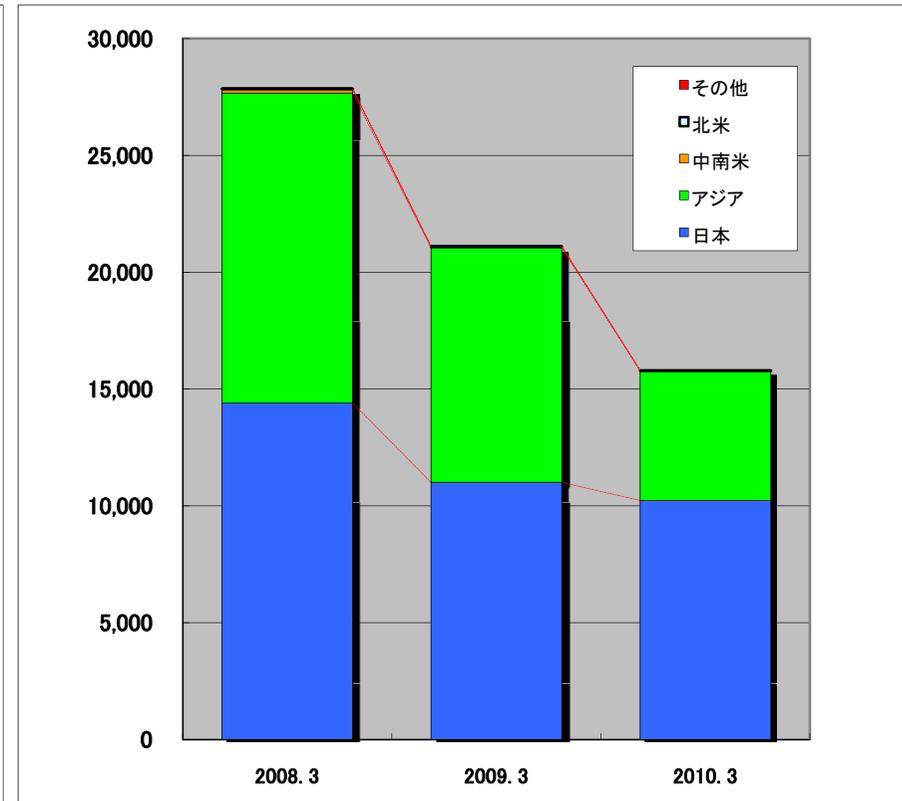
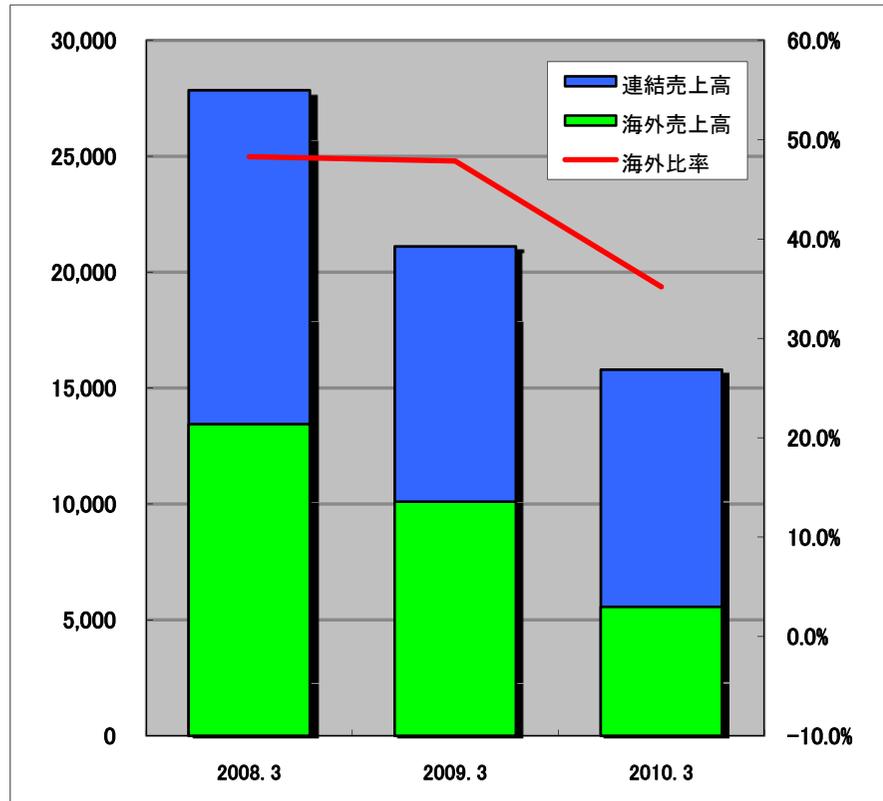
当製品群は、携帯電話向け、デジタル家電向けが主なものであります。インサート成形を中心に当社グループの強みである微細加工技術をベースに、スマートフォン等の高機能携帯電話等で需要が拡大しているマイクロピッチコネクタの拡販に努めて参りました。期初より受注量が回復して参りましたが、夏場以降は海外市場における価格競争激化の影響を受け、本格的な回復に至らず、低水準での推移となりました。その結果、当製品群の売上高は62億4千3百万円(同20.2%減)となりました。

④ その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は8億7千1百万円(同48.1%減)となりました。

■地域別売上高

百万円

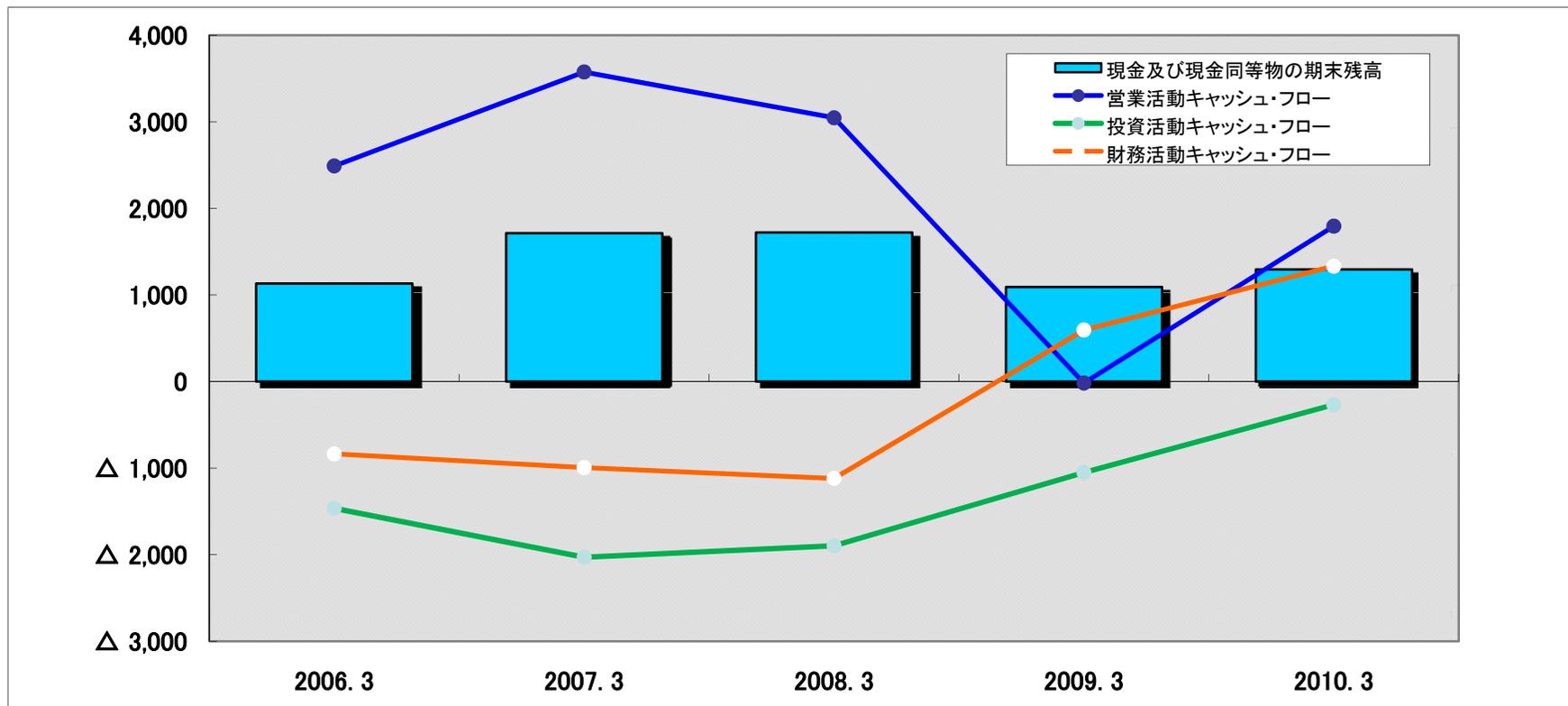


	2008.3	2009.3	2010.3
連結売上高	27,851	21,109	15,795
海外売上高	13,446	10,101	5,561
海外比率	48.3%	47.8%	35.2%

	2008.3	2009.3	2010.3
日本	14,405	11,008	10,234
アジア	13,267	10,041	5,553
中南米	171	56	4
北米	3	3	3
その他	4	0	0

■ キャッシュ・フロー

百万円



	2006.3	2007.3	2008.3	2009.3	2010.3	前期比
営業活動キャッシュ・フロー	2,490	3,576	3,047	Δ 17	1,795	1,812
投資活動キャッシュ・フロー	Δ 1,464	Δ 2,029	Δ 1,897	Δ 1,050	Δ 267	783
財務活動キャッシュ・フロー	Δ 835	Δ 994	Δ 1,119	595	Δ 1,333	738
現金及び現金同等物の期末残高	1,132	1,715	1,722	1,093	1,296	203

当期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比べ2億3百万円増加し、当期末には12億9千6百万円となりました。

当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は17億9千5百万円(前年同期は1千7百万円のマイナス)となりました。これは主に減価償却費13億3千6百万円の計上及び仕入債務14億2千8百万円の増加による資金の増加、売上債権10億7千6百万円の増加による資金の減少であります。

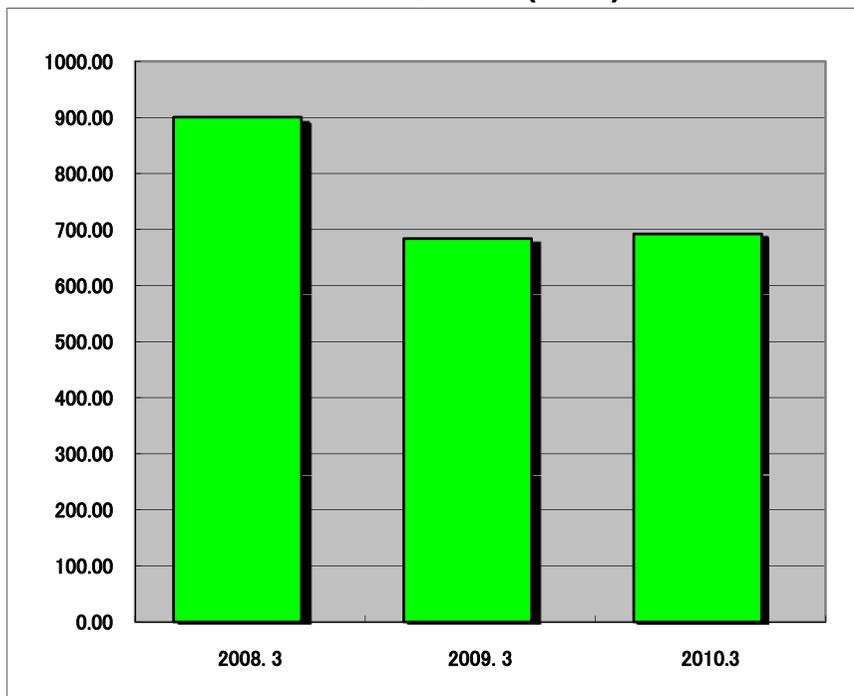
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は2億6千7百万円(前年同期比74.5%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出5億2千1百万円及び有形固定資産の売却による収入2億2千3百万円によるものであります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

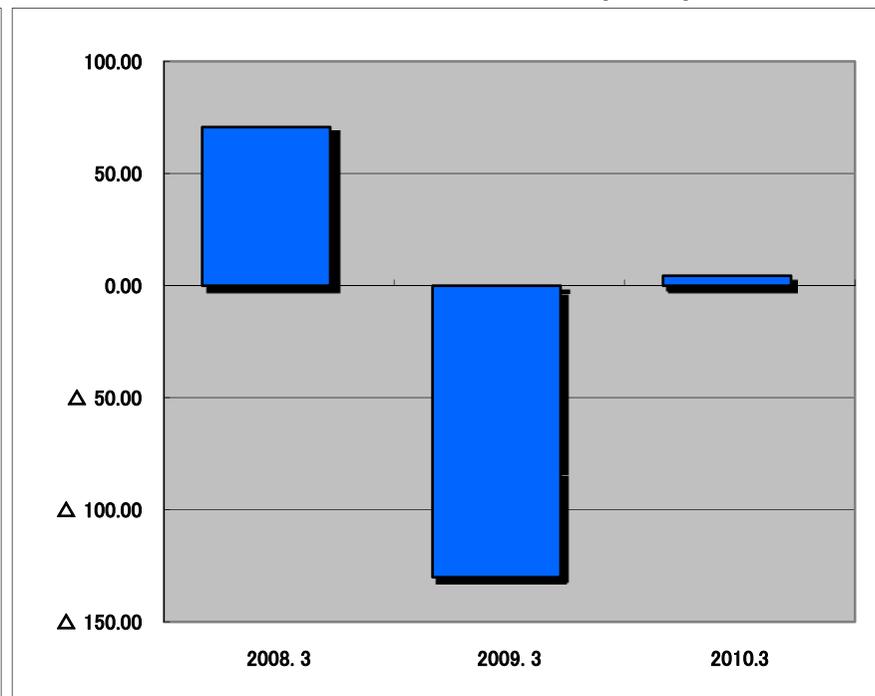
財務活動の結果使用した資金は13億3千3百万円(前年同期は5億9千5百万円の取得)となりました。これは主に借入金の純減額11億8千3百万円の資金の減少であります。

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)

円



	2007. 3	2008. 3	2009. 3	2010. 3	前期比
1株当り純資産(連結)	853.01	900.98	684.11	692.54	1.2%増
1株当り当期純利益(連結)	65.42	70.78	△ 130.03	4.42	-

○配当について

当社グループは、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、利益配分を安定かつ継続的に実施することを重視し、利益水準や配当性向などを総合的に判断して、適切な利益配分を行っていくことを基本方針としております。

当期の剰余金の配当につきましては、第2四半期末におきまして四半期純損失を計上する結果となったことから無配とさせていただきましたが、期末配当におきましては年度後半より業績が順調に回復してきており、株主の皆様への安定配当による貢献を図ることを目的に、1株当たり5円とさせていただきます。従いまして、当期の1株当たり年間配当金は5円となります。

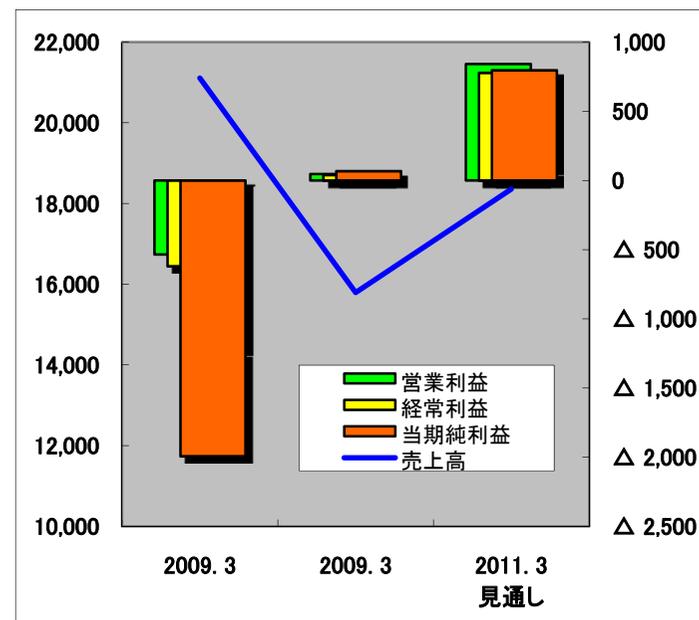
2011年3月期
の見通し

■通期業績予想

●連結

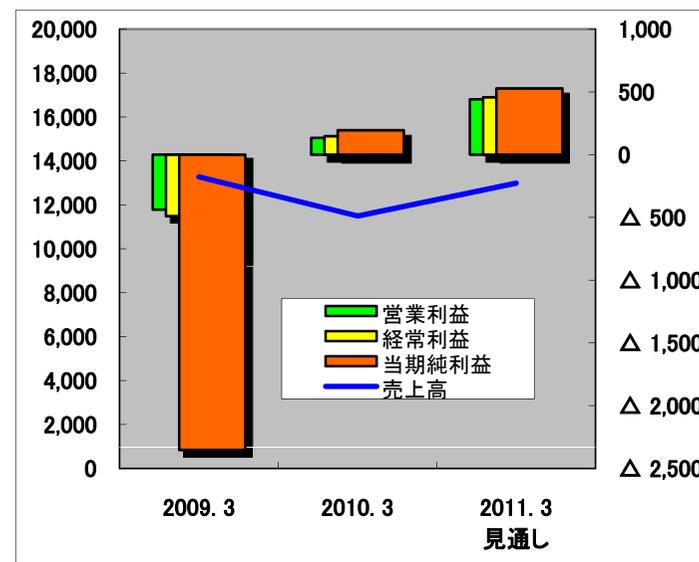
百万円

	2009. 3期末	2010. 3期末	2011. 3期末 見通し	前期比
売上高	21,109	15,795	18,357	16.2%増
営業利益	△ 535	46	842	-
営業利益率	-	0.3%	4.6%	4.3P増
経常利益	△ 620	40	778	-
経常利益率	-	0.3%	4.2%	3.9P増
当期純利益	△ 1,993	67	797	-
当期純利益率	-	0.4%	4.3%	3.9P増



●単体

	2009. 3期末	2010. 3期末	2011. 3期末 見通し	前期比
売上高	13,270	11,490	12,984	13.0%増
営業利益	△ 438	133	441	229.2%増
営業利益率	-	1.2%	3.4%	2.2P増
経常利益	△ 490	147	458	210.4%増
経常利益率	-	1.3%	3.5%	2.2P増
当期純利益	△ 2,352	194	528	171.1%増
当期純利益率	-	1.7%	4.1%	2.4P増



2011年3月期の見通しといたしましては、新興国向けの輸出等が牽引となり回復傾向が持続していくと思われませんが、当面は緩やかなものにとどまるものと思われれます。また、LED関連については、引き続き広範囲にわたり市場の拡大が継続し、需要は増加基調で推移するものと思われる一方で、国内の景気動向については、政府による各種景気対策の恩恵を受けこれまで需要を牽引して参りました自動車、家電等の耐久消費財の需要が踊り場を迎える可能性や、為替市場や非鉄金属市場の大幅な変動及び雇用環境の悪化による個人消費への影響等、景気を下押しする要因も依然として存在しております。

このような経営環境のなか、当社グループは品質改善活動やコスト削減の推進をはじめ、当社の強みである金型分野やインサート成形分野における技術開発を通じて、全社一丸となって収益力の向上に努めて参ります。

当社グループの平成23年3月期の通期の連結業績予想は、売上高183億5千7百万円(前年同期比16.2%増)、営業利益8億4千2百万円、経常利益7億7千8百万円、当期純利益7億9千7百万円を見込んでおります

補足資料

■単体の業績推移



	2006.3	2007.3	2008.3	2009.3	2010.3	前期比
売上高	13,931	15,674	17,592	13,270	11,490	13.4%減
営業利益	507	682	1,171	△ 438	133	—
営業利益率	1.5%	4.4%	6.7%	—	1.2%	—
経常利益	523	728	1,164	△ 490	147	—
経常利益率	1.7%	4.7%	6.6%	—	1.3%	—
当期純利益	204	476	750	△ 2,352	194	—
当期純利益率	0.6%	3.0%	4.3%	—	1.7%	—



中期経営方針

経営品質の向上と
新たな価値の創造

2010年度 経営重点項目

- ・ 環境に配慮した事業の推進
- ・ スピードを重視した対応
- ・ モノ造りへの新たなる挑戦

現在、当社グループの経営課題を全社的な取り組みとして推進させる目的で、2010年度の経営重点項目として次の3項目を掲げ、当社グループの全ての部門において具体的な行動計画を立てて積極的に取り組んでおります。

- ① 環境に配慮した事業の推進
- ② スピードを重視した対応
- ③ モノ造りへの新たなる挑戦



①環境に配慮した事業の推進

現代社会にとって重要なテーマとなってきております地球温暖化をはじめとする環境問題に、これまでISO14000を活動の中心として環境に優しい企業を目指しての取り組みを行って参りましたが、本年は特に省エネ法の改正を視野にいれ、今まで以上にエノモトの全ての事業所及び工場が一体となり、責任ある企業市民としてよりレベルの高い取り組みをして参ります。



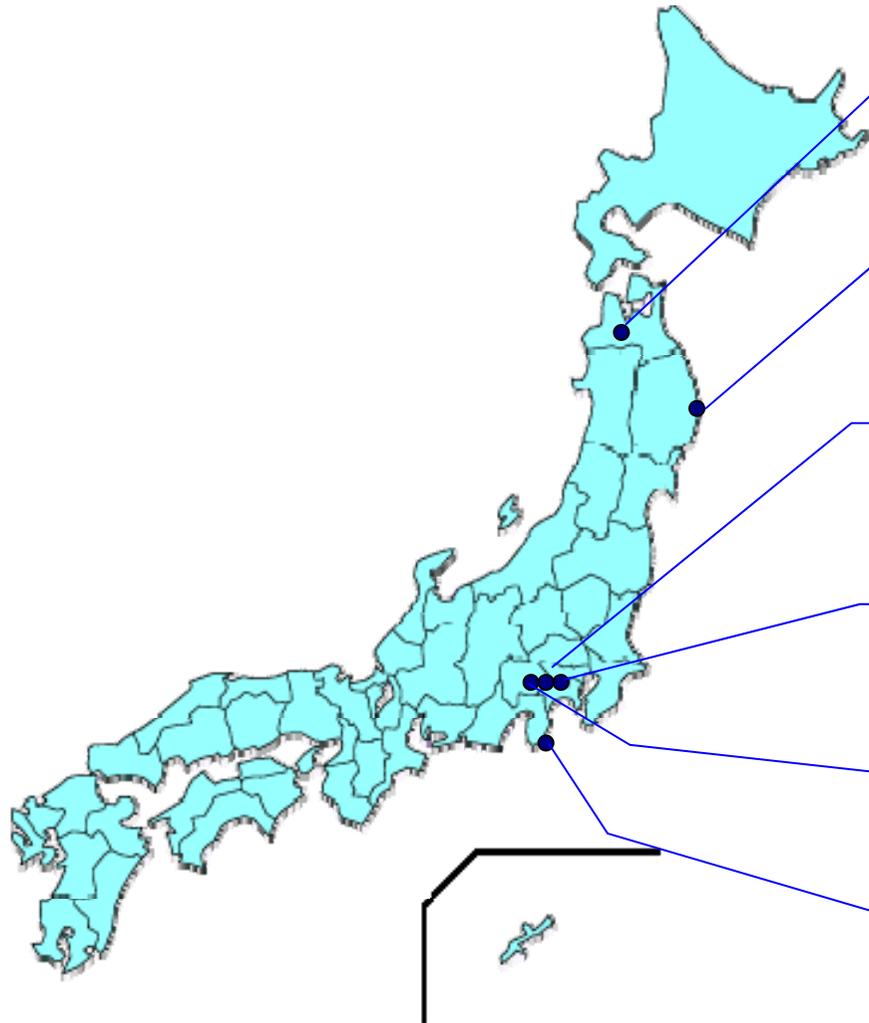
②スピードを重視した対応

当社の主力であるプレス部品、樹脂成形部品は近年、台湾や中国をはじめとするメーカーが台頭してきており、一段とグローバル競争が激化してきております。当社は、このような厳しい経営環境においてもお客様に一番に選ばれるメーカーを目指し、顧客の求めているニーズを的確に捉え、期待以上の製品及びサービスを提供することを愚直に続けて参ります。特に激しく変化する市場に身を置くお客様にとって、素早い対応を提供することこそ、当社の重要なサービスの一つであると考え、顧客窓口対応のスピードアップをはじめ、金型設計、金型製造、製品製造、そして検査・出荷に至る全ての業務において、スピードを重視した対応を図ることで企業価値の向上に努めて参ります。

③モノ造りへの新たな挑戦

これまでの金型製造やプレス製造に関する技術体系の中で常識として扱われた分野についても、大幅なコスト削減や品質の向上といった目標のもとに、新しい視点を大切にしながら技術的なブレークスルーを目指して参ります。特に部品点数の削減による金型製造コストの大幅な削減や、多数個取り樹脂成形金型による製造コストの削減等、今後当社グループが乗り越えるべき技術的な課題に果敢にチャレンジを行って参ります。





・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社/上野原工場

山梨県上野原市上野原8154-19
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・藤野工場

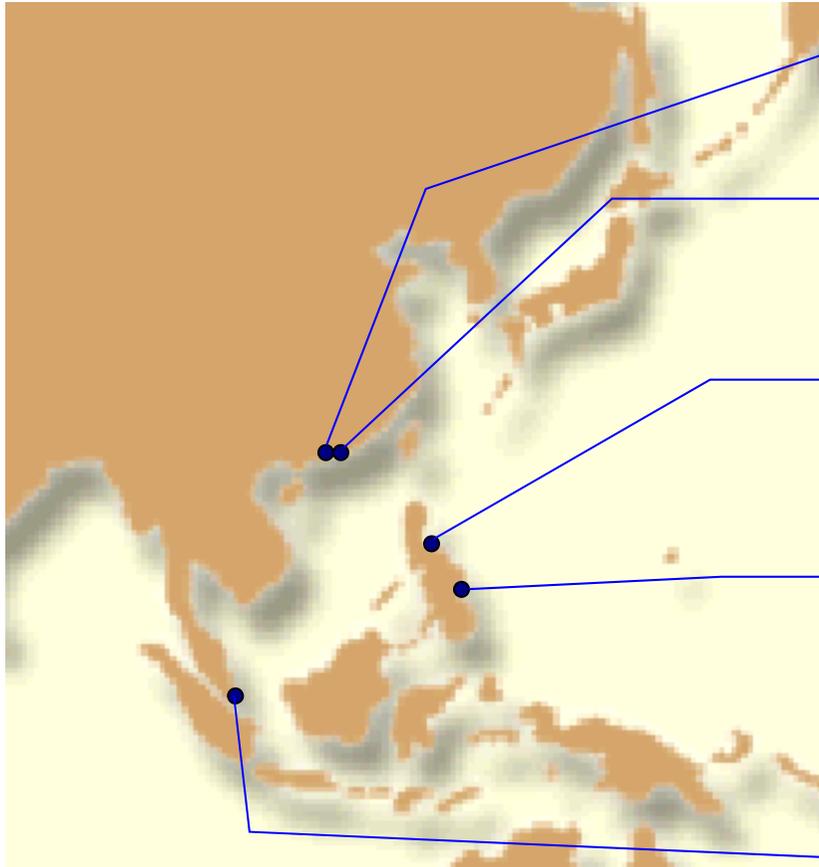
神奈川県相模原市緑区佐野川2350
TEL.0426-87-5111 FAX.0426-87-4878

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159

・下田工場

静岡県下田市加増野字大古隅12-1
TEL.0558-28-1550 FAX.0558-28-1552



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
CEBU OPERATIONS
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

▪ **ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.**
30Loyang Drive,Singapore 508945
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.